



病弱教育サポートセンターきらり☆の取組

～在籍校が主体となって進める入院児への支援～

学校名：秋田県立秋田きらり支援学校

発表者：藤原 恵理子 小林 佐知子

- ・秋田県には、病弱教育のみを対象とする特別支援学校がない

病弱教育の推進

入院・療養中等の幼児児童
生徒への支援の充実



令和2年4月
病弱教育サポートセンターきらり☆を開設

- ・病弱教育におけるネットワークの中核的な拠点
- ・秋田きらり支援学校の校内組織



(1) 担当スタッフ

☆特別支援教育アドバイザー（病弱教育）



- 通常の学級や院内学級への相談活動及び助言
- 小・中学校等及び高等学校の病弱教育の支援体制や指導についての助言
- 病弱教育の充実にに向けた施策への助言
- 担当教員への指導力向上に関する研修会の実施
- 市町村教育委員会や病院との連絡調整

☆スタッフ（病弱教育コーディネーターを含む）



- 病院や園・学校との連絡調整
- 入院から復学までの相談支援と学習支援
 - *学習支援は『病児学習支援ボランティア人材バンク』と連携
- 地域の特別支援学校との連携



(2) 業務内容

ア 県内の病弱教育対象幼児児童生徒への支援

- ・病弱教育対象の児童生徒が在籍する学校、保護者、関係機関等への支援
- ・病弱対象幼児の就学に関する相談支援

イ 入院児童生徒への相談支援・学習支援

- ・秋田市の小児科病棟のある4つの総合病院、医療療育センター入院児童生徒への支援
- ・秋田大学の学生が中心となって活動する民間団体「病児学習支援ボランティア人材バンク」の学生による学習支援（民間団体との連携）

ウ 県内の病弱・身体虚弱特別支援学級とのネットワークづくり

- ・特別支援学級実践研修（秋田県教育委員会の事業）、設置校への訪問による情報交換



(2) 業務内容

エ 市内総合病院との連携

- ・長期入院児の病院内訪問教育、入院幼児への幼児教室の実施

オ 研修・情報発信

- ・病弱教育研修会の実施、地域支援だよりや学校ホームページによる情報提供

カ 関係機関との連携・関係機関への理解啓発活動

- ・市町村教育委員会、高等学校への訪問や情報交換、小・中学校長会での説明



(3) 開設からこれまで

病気を抱えた児童生徒がいるときに・・・



どんな対応が必要か？

何ができるのか？

だれに相談しよう？



「病弱教育サポートセンターきらり☆」がある！

困ったときに相談できる機関として周知



今年度の重点

「病弱教育サポートセンターきらり☆」の活用

+

病児の在籍校の意識向上

「自分の学校の子どもを自分たちで支援する」



(1) 入院生徒について

- 中学2年生
- 両足の怪我
- 1か月半ほどの入院期間



(2) 入院生徒への支援について

在籍校

- 遠隔授業の実施
- 定期的な学習プリント等のやりとり
- 学校行事動画の配信
- eライブラリーによる自主学習の勧め

病弱教育サポートセンター

- 病院内訪問による学習支援
- *在籍校や病棟との連絡調整

病院

- *主治医から学習支援実施の許可。リハビリ等の予定はあるが、学習を優先させて計画して構わない。



(3) 入院から支援開始までの流れ

在籍校

病弱教育サポートセンター

病棟看護師から学習支援希望の入院生徒がいると連絡が入る

主治医から、入院生徒についての情報提供

生徒、保護者との相談支援

保護者から、サポートセンターの学習支援利用の連絡が入る

本校教頭から、在籍校教頭に学習支援実施の連絡を入れる

サポートセンターから担任に連絡を入れて、情報共有をする



(3) 入院から支援開始までの流れ

在籍校

教頭、教務主任、担任、学年主任、教科担当で、入院期間における学習支援について打合せ

在籍校教務主任が来校し、遠隔授業も含めた学習支援について打合せ

遠隔授業実施に向けて、教務主任とICT支援員が打合せ

学習支援開始

遠隔授業実施に向けて、在籍校と病室の接続テスト
*病室は、サポートセンタースタッフが立ち会い

遠隔授業開始

病弱教育サポートセンター

(4) 在籍校による支援の実際

ア 遠隔授業について

○週3日4時間程度

＊生徒の希望教科（数学、英語を2時間ずつ）を実施

＊ICT支援員の勤務日に実施

○学校のPCを使用

○Microsoft Teamsの会議を使用

○病棟内のWi-Fi使用



3 在籍校が主体となって入院生徒への支援を進めた事例

在籍校



今日の授業は分かりましたか。

はい、分かりました。

元気？暇してる？

元気だよ。

入院生徒（病室）



- 教室にいる時と同様、授業の始まりと終わりの挨拶も一緒にしていた。
- ICT支援員が、カメラの向きの調整や、ズーム等の支援をしたことで、板書が見やすく、画面越しでもノートをとることができていた。
- 教師が机間巡視の際に声をかけてくれたり、画面越しにプリントを確認してくれた。
- 休み時間になると、友達が声をかけてくれて楽しそうに話をしていた。



イ 定期的なプリント等のやりとりについて

○週1回、担任が病棟ナースステーションを訪問

*コロナ禍で面会制限があり、直接、顔を合わせることはできなかった。

在籍校

- 担任から各教科担当にプリント等が渡り、学習の頑張りや理解度が把握できた。

- 翌週の授業プリント
- 他の配付物等



- 提出課題
- 自学したプリント等

入院生徒

- 翌週の学習プリントが確実に届くことで安心して遠隔授業を受けることができた。
- 入院中も、学習の頑張りや理解度を認めもらうことができた。



(5) サポートセンターによる学習支援の実際

- 週1回1時間程度（数学中心）
- 数学の学習について
 - ・在籍校の授業プリントを使用
 - ・週3時間の数学の授業のうち2時間を遠隔授業で受けることができていたため、もう1時間分を学習支援で補完した。
- その他の教科について
 - ・自主学習した内容で分からなかった問題については、一緒に教科書やワークを見ながら考えた。



(6) 入院期間を終えて

在籍校

- 遠隔授業の実施
- 定期的なプリント等のやりとり
- など
在籍校が主体となる支援

入院生徒

- 学習の遅れに対する不安の軽減
- 在籍校とつながる安心感
- 復学に対する不安の軽減

～入院生徒の感想～

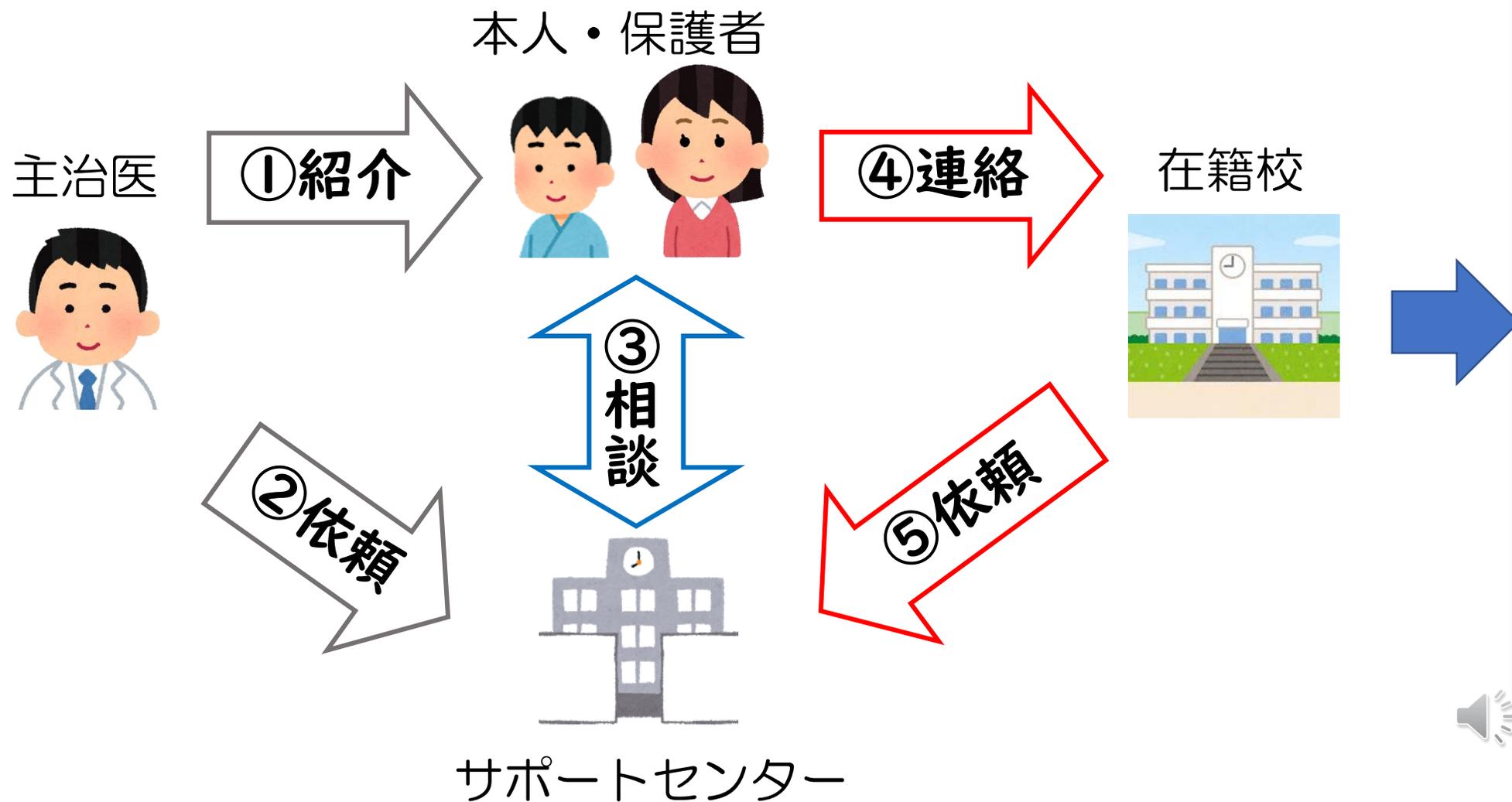
- 授業に遅れることなく、勉強を進めることができたので良かったです。教科担当の先生もプリントのチェックなどを画面越しにしてくれたので良かったです。

～保護者の感想～

- 入院して勉強がおろそかになると思ったので大変良かった。
- 学校での授業にも参加できたり、友達とのコミュニケーションも図れたと思うので良かった。



(1) 入院から学習支援実施までの流れ



学習支援・相談支援・復学支援



(2) 入院及び自宅療養中の児童生徒への学習支援の必要性

病気のときでも教育はできる

病気のときだからこそ行う教育がある



ベッドで横になって
オンラインで
オンデマンドで



内容を絞って

休み休み



机に向かわなくても
できる方法がある



<入院児童生徒へのアンケート結果より>

Q:入院中、気になったこと



全員が回答していた!

学習のこと

学校に戻ってからのこと

家族のこと

病気や治療のこと

友達のこと

部活や習い事のこと



Q: 学習支援を受けてよかったことや感想



忘れた勉強を取り戻せた

学習・勉強するきっかけになった

病院以外の人との関わりができた

苦手なところがわかるようになった

学校の先生と同じくらい教えてくれた

勉強だけでなく心のケアになった

毎回楽しみに待っていた

精神的にも安心・安定した日々だった



学校と連携してくれて安心できた

憂鬱にならずに勉強が出来た

不安いっぱい入院生活の中で安心できた





Q:遠隔授業を行った感想

教室にいるみたいに授業を受けられたこと、授業の中で友達と話せたことがうれしかった

担任の先生が、プリントのチェックなどを画面越しにしてくれたのが良かった

学校での授業に参加できたり、友達とのコミュニケーションも図れたのでよかった



(3) 遠隔授業に向けた支援



iPad



アバターロボット「OriHime」



テレプレゼンスロボット「kubi」



モバイルWi-Fiルーター

「インターネット環境がない」、「病室で授業に参加したい」、「自宅療養中でも授業に参加したい」等のニーズに対応



よくある質問

どんな人が相談できますか？

どなたでも相談できます。病気の子どもや保護者、主治医や看護師等の医療関係者、在籍する学校関係者等からの相談が多いです。

料金はかかりますか？

無料です。

どんなサポートがありますか？

秋田市内の病院に入院中であれば、サポートセンタースタッフが病室を訪問し、学習支援や相談支援を行うこともあります。

市外の場合は、在籍校と連携を図り、支援方法の提案等を行います。

自宅療養中のサポートはありますか？

在籍校からの依頼があれば、自宅と在籍校をつないで遠隔授業を行う際のお手伝いをします。

また、秋田大学の学生が中心となり活動する「病児学習支援ボランティア人材バンク」と連携しており、ボランティアによる直接支援や遠隔での学習支援、添削支援等のサポートもあります。



病弱教育 サポートセンターきらり☆

一人一人のニーズに応じた支援を行うため、関係機関をつなぎ、連携します。

相談電話

☎018-838-1181

秋田県立秋田きらり支援学校内
住所：〒010-1409

秋田県秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

電話：018-889-8573（学校代表）

FAX：018-889-8575

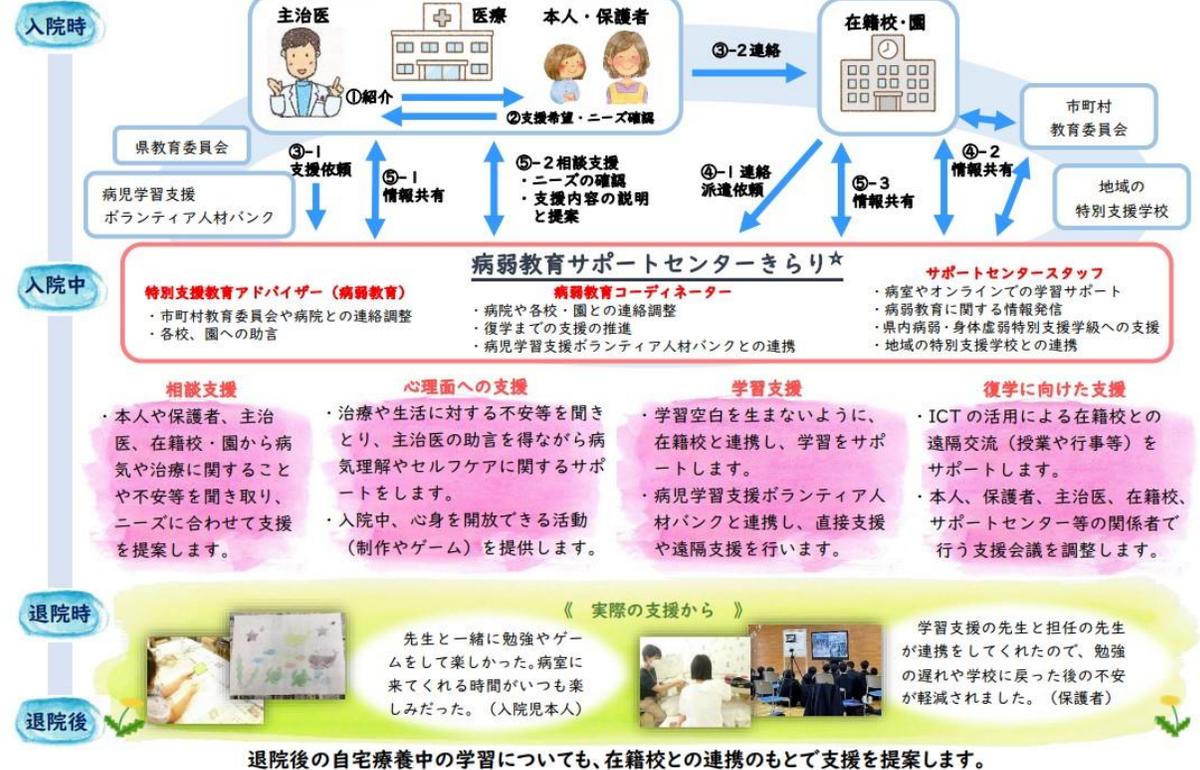
メール：kirari-support@akita-pref.ed.jp

病弱教育サポート センター きらり☆

病気の子どもたちを
サポートします。
いつでもご相談ください。

秋田県立秋田きらり支援学校内

< 入院時から退院時までの流れと具体的な支援内容 >



本人と学校をよりよくつなぐサポートを目指して